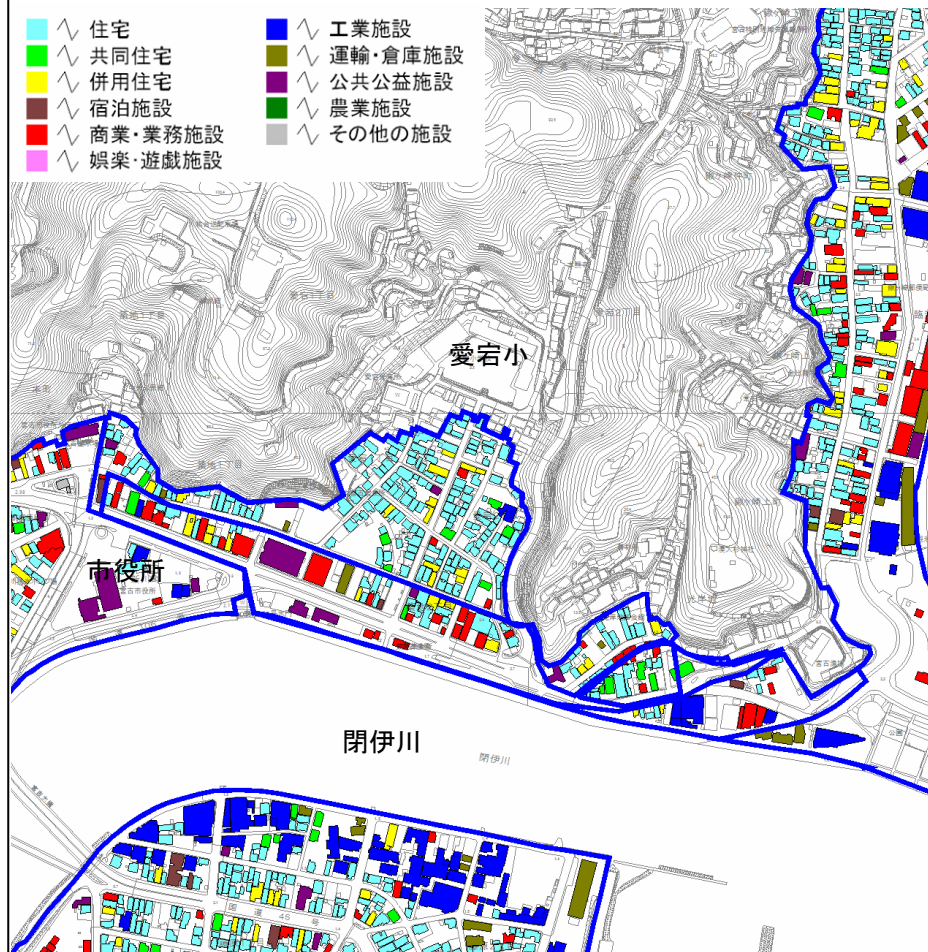


地区の現況

●基盤整備の概要

- ・国道 45 号が東西に通っており、沿道には商業・業務施設等が立地し、その背後には住宅地が形成されています。
- ・閉伊川沿いには宮古駅と宮古港をつなぐ臨港線（貨物専用の鉄道）が走っており、現在も堤防沿いに跡地が残っています。

●震災前の建物用途の状況



●宮古市東日本大震災復興計画基本計画

第5 地域別復興まちづくりの方向性

宮古地域

- ・防潮堤の新たな整備と必要に応じ嵩上げを促進するとともに、背後地の高台を活用するなど、安全で安心して暮らすことのできる住宅地の整備を進めます。
- ・魚市場、漁港、港湾や観光施設などの産業関連基盤については、施設の復旧に向け、計画的、段階的な事業展開により、着実な復興に取り組みます。
- ・防潮堤の外部や防潮堤を設置しない地域における避難体制の強化・確保に向け、避難タワーや避難ビルの設置を検討します。また、避難路、避難場所については、高齢者や障がい者に配慮し、誰もが容易に避難することができるよう見直しを図るとともに、避難道路網の複線化を進めます。

●宮古市都市計画マスタープラン(H15.3)地域別構想「中心地区」

キャッチフレーズ：みやこまち

◆地域の特色

- ① 宮古市の「かお」となっている地域で、宮古駅を中心に商業集積地がひろがり、それを包むように業務地や住宅地が形成されています。
- ② 近年、宮古病院の移転や郊外型大型店の立地に伴い商業の活力が衰退し、人口も減少するなど、都心機能の低下がみられます。
- ③ 地区の外縁部は主に住宅地になっています。

◆地域の課題

- ① 中心市街地の活力が衰退し、商店街から客足が遠のき、都市の中心性が失われています。
- ② 中心市街地の都市基盤施設の整備が立ち遅れています。

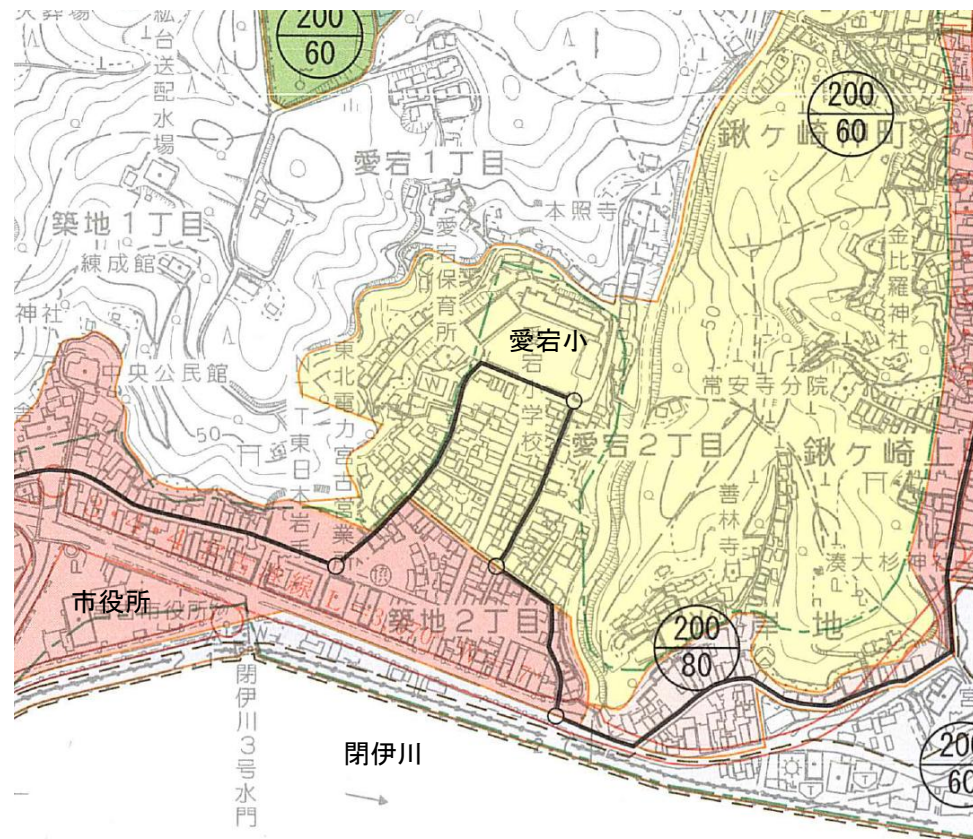
◆地域の将来像

- ① 将来にわたって宮古の「かお」であり、明るい街並みを創出しながら当市の中心商店街として発展します。
- ② 外縁部は、住環境が維持・保全された住宅地が形成されます。

◆まちづくりの方向 【土地利用】

- ① 中心部は商業活性化を支える土地利用を図ります。
- ② 国道106号沿道は、商業・業務系の利用増進を図ります。
- ③ 外縁部の住宅地は住環境の保全を図り、新たな開発に対しては良好な住環境を確保するよう誘導します。
- ④ 閉伊川の河川敷は市民のやすらぎの空間とします。

■都市計画図



凡	例	容積率 (%)	建ぺい率 (%)	高さ制限 (m)	用途制限 (m)
第一種低層住居専用地域		80	40	1.0	10.0
第二種低層住居専用地域		100	60	—	10.0
第一種中高層住居専用地域		80	40	—	10.0
第二種中高層住居専用地域		200	60	—	—
第一種住居地域		200	60	—	—
第二種住居地域		200	60	—	—
近隣商業地域		200	80	—	—
商業地域		400	80	—	—
準工業地域		200	60	—	—
工業専用地域		200	60	—	—

準防火地域	防火地域
公	園
緑	地
都市計画街路	
区画整理区域	
臨港地区	
宅地造成工事規制区域	
第1種 (10) (8) (4) (2) (1) (0.5)	
第3種 12 3 / 10 2 1	
第4種 15 4 / 10 2 1	

都市計画区域内で用途地域の指定のない区域
容積率 200%
建ぺい率 70%

上段 容積率 (建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合)(%)
下段 建ぺい率 (建築物の敷地面積の敷地面積に対する割合)(%)

■国土利用計画



- 都市地域
- ▨ 地域森林計画対象民有林
- 保安林

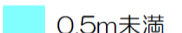
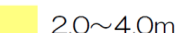
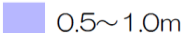
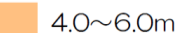
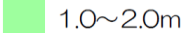
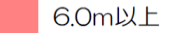
■埋蔵文化財等の状況（いわてデジタルマップより）



- ▨ 埋蔵文化財包蔵地

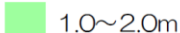
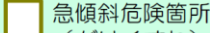
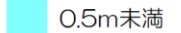
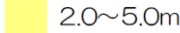
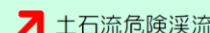
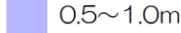
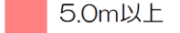
■避難場所、避難ルート状況（宮古市ハザードマップより）



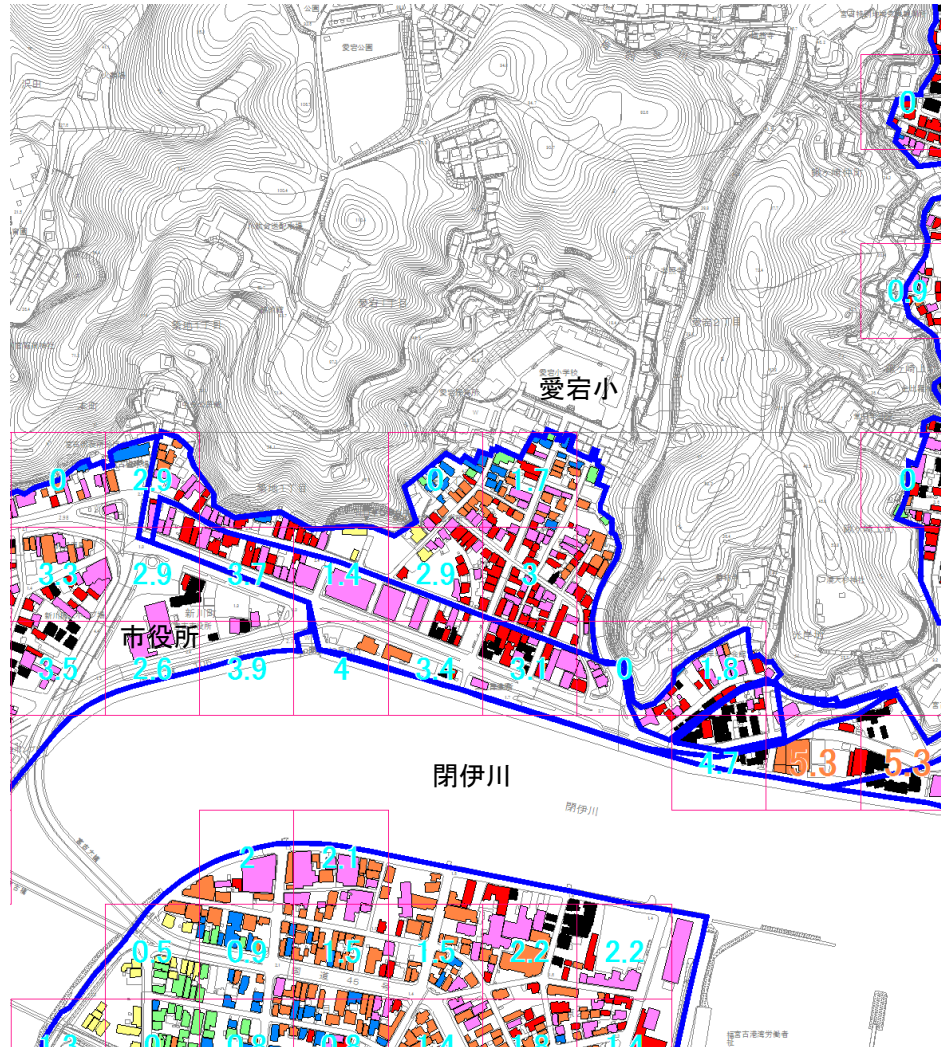
避難場所・避難所		津波浸水深さ	
 避難場所（高台）		 0.5m未満	 2.0～4.0m
 避難所		 0.5～1.0m	 4.0～6.0m
 避難ルート		 1.0～2.0m	 6.0m以上

■危険区域の状況（宮古市ハザードマップより）



避難所	洪水浸水深さ	土砂災害危険箇所
 避難所	 1.0～2.0m	 急傾斜危険箇所（がけくずれ）
 0.5m未満	 2.0～5.0m	 土石流危険渓流
 0.5～1.0m	 5.0m以上	

■震災による被害状況



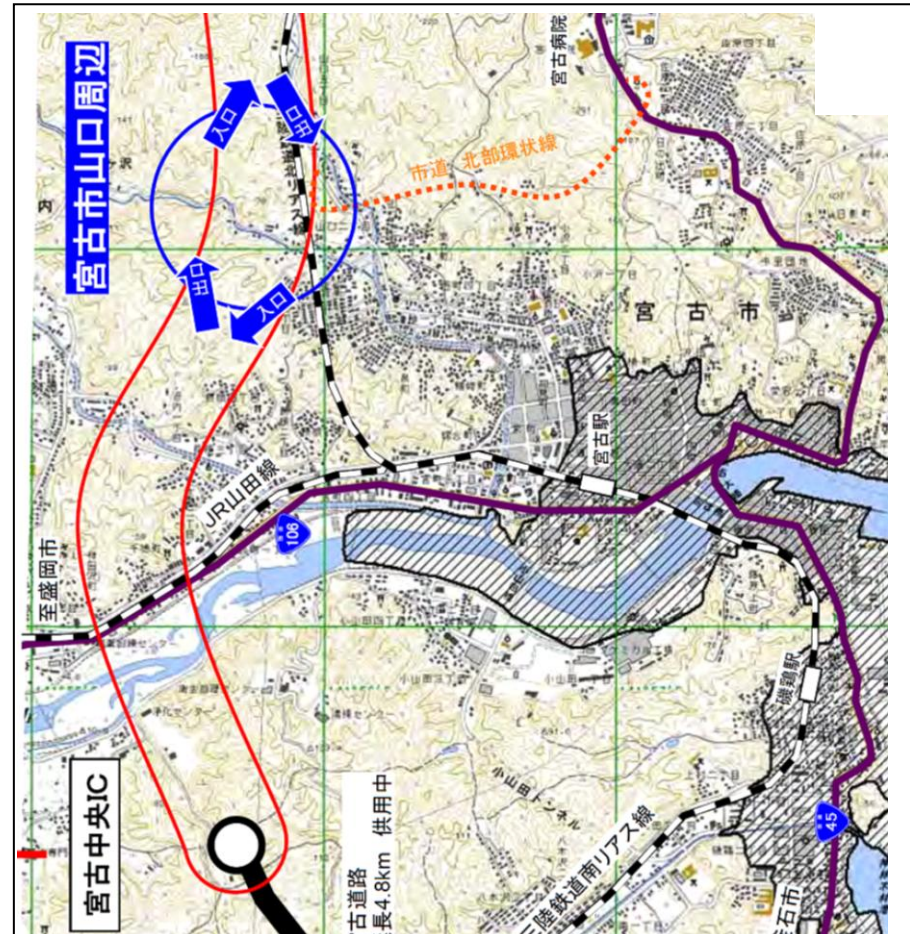
建物被災区分

- 全壊(流失)
- 全壊(撤去)
- 全壊(条件付再生可)
- 大規模半壊
- 半壊(床上浸水)
- 一部損壊(床下浸水)

浸水深(メッシュ)

- 13.0 10m以上
- 8.0 5m以上10m未満
- 3.0 5m未満

■三陸沿岸道路が通る概ねの範囲



ルートの範囲(500m幅)

H23.11東北地方太平洋沖地震の津波浸水域

道路が通る概ねのルート及び出入り口の位置にかかる意見

- 【沿線市町村及び一般アンケートの意見】
- ・山口地区で市道北部環状線に接続させ宮古病院へのアクセスに配慮してほしい
- ・崎山地区や堰内地区とのアクセスに配慮してほしい
- ・津波浸水域を回避してほしい 等

ルート及び出入り口の位置の考え方

- 【ルートの考え方】
- 津波浸水域を極力回避し、市道北部環状線に接続させようとして、宮古～田老間の連通性を考慮したルートを考えています。
- 【出入り口の位置の考え方】
- 宮古市山口周辺: 宮古市街地や宮古病院等へのアクセスを考慮し、市道北部環状線に接続する位置を考えています。また、現在の交通利用状況や宮古病院へのアクセス等を考慮し、南北両方向へのアクセスが可能な出入り口を考えています。
- 宮古市田老小林周辺: 田老地区とのアクセスを考慮した位置を考えています。また、コスト削減や早期整備を図る観点から、現地の交通利用状況等を踏まえ、構造上設置が可能な位置で、南北それぞれの方向へのアクセスが可能な出入り口を考えています。

※なお、今後詳細な設計を行うにあたり、市町村の復興まちづくり計画等と調整してまいります。